

紙面から

教育随想

「バスケットボールの財産」

愛知学泉大学教授

女子バスケットボール部監督

木村 功氏

羅針盤

「文化祭の最高殊勲選手」

北中学校長

大久保慎一

この人に聞く

工房「リトル・クラフト」主宰者

石川 光昭氏

特集

「二十一世紀の教育を描く」

―藤井新教育長を訪ねて―

ふれあい

「仲間の一人として」

新香山中学校 柴田 明美

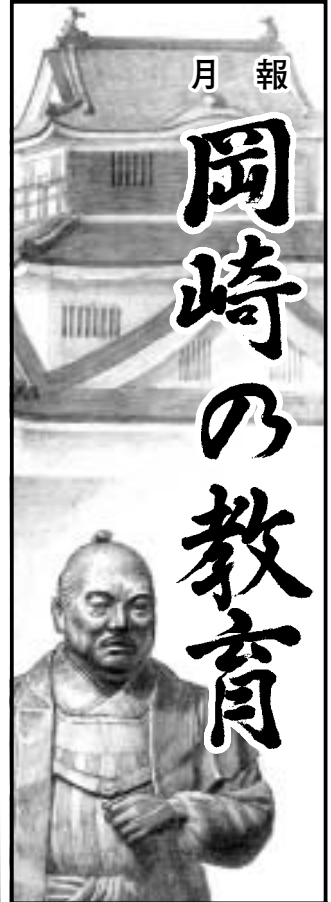
師弟同行

元竜海中学校長 成田 邦彦

羽根小学校 二瓶 千秋

フォト・ヒストリー岡崎の教育

少年消防クラブ（昭和五十六年）



1月号

平成13年1月1日

発行／編集
岡崎市教育委員会

自立心を
育てる教育



教育の場では子供たちの育成が叫ばれています。この当たり前の事が叫ばれる程、子供たちが病んでいるのでしょうか。時代の変化とともに、若者が変わってきていると大人が嘆く程、変わっているのでしょうか。

私は愛知学泉大学女子バスケットボール部監督に就任して、20年目のシーズン中です。私たちが行っている



るバスケットボール競技の目的は、バスケットボールを通して個人の精神と身体育成、及び、集団における個人の在り方の育成でありましょう。競技の特性から当然「勝利」が目的とされますが、それは結果であり本来の目的は前者でしょう。

一シーズンの目標としては、学生の立場から、全日本学生選手権

(インカレ)が最大の目標となりません。本年度は、十一月二十五日から十二月三日の予定で開催され、なんとか5連覇、通算18回目の全国優勝を達成する事ができました。

よく勝利至上主義とか言われますが、勝つためだけの活動の継続は困難でありましょう。勝つために何をしたのか、結果よりも過程が大切

— 教育随想 —

バスケットボールの財産

愛知学泉大学教授
女子バスケットボール部監督

木村 功



であり、それが本来の目的である「育成」につながっていきます。今の時代、自分が活動するよりも誰かに「機械」に頼れるものがあり、それが若者に必要な「体験学習」とか「経験のチャンス」を減少させていると思います。バスケット活動は、頭で考えた事を体で表現しなければなりません。練習では考えるより判断、

憶えるより慣れる、つまり知っている事(知識)と出来る事(プレイ)は違うし、たとえ出来ても成功しなければなりません。正確を求めても失敗があり、失敗を恐れて消極的になれば競技になりません。そのため競技者は、己の体力を駆使するかたわら、不安・恐れ等のプレッシャーとたたかわなければなりません。時にはそれに負けて、競技力も精神力も挫折しそうになる時もあります

が、その困難を競技者と指導者、つまりチームメイトがカバーしながら克服していく事は、まさしく過程が財産であり、貴重な宝物になっていきます。

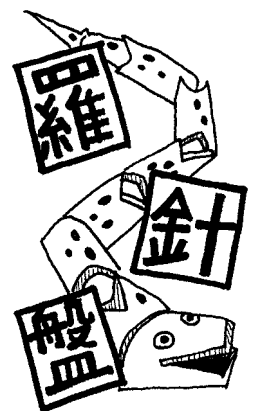
学校での勉強もスポーツ活動も、知識をいくら教えてもそれは「教」であり、それを実践していくところに「育」はあると思います。よい指導かダメな指導かの評価より、学生たちがどうなっていくか、又、そこに我々がどうかかわっていくかが重要ポイントでしょう。人が環境を作り、又、環境が人を作るように、我々が若者の育成にたずさわると、その中で我々も育っていくかなければなりません。

成長は牛歩の如く、大人と子供のタイアップがあれば結果はついてくると信じています。

(きむら いさお)

文化祭の最高殊勲選手

北中学校長
大久保 慎 一



行事の削減・縮小の波に逆行するように本校の体育大会・文化祭は膨らんでいく。

とりわけ、今年の文化祭は大変だった。いやとんでもなかった。なかでも、映画『学び座・ソーランの歌が聞こえる』で名を馳せている伊藤多喜雄さんを野外ステージに招聘したことである。生徒会の「お金は無いが来てほしい」「伊藤さんの歌で北中ソーランを踊りたい」の意気込みが伊藤さんに届いた。

ところが、これに参った。何と北海道からやって来るといって十一トン積みのトラックの対応から、十八人のスタッフの宿泊まで大騒ぎなのである。やはりとんでもなかった。

特に難題だったのが、朝六時三十分から五時間かけての舞台セッティングであった。十五人ほどの人手がいるとのことだが、先生や生徒は対



工房「リトル・クラフト」主宰者
三河仏壇彫刻部門 伝統工芸士

石川 光昭 氏

石川さんが主宰する木彫り専門のクラフト工房「リトル・クラフト」は、土・日曜日に藪田の自宅で開かれている。部屋に入ると木彫りの作品がずらりと並べられており、木の香りと共に温かい雰囲気包まれている。石川さんは三河仏壇の彫師であり、三十年を越える仏壇彫刻の経験を生かしたクラフト工房には、若者からお年寄りまで、多くの人が木彫りを楽しみに集まって来る。

石川さんが彫刻の世界に入られたのは中学卒業と同時である。定時制

高校に通いながら、父親である師匠の下で修業を積まれた。

「あのころは、まだ昔ながらの徒弟制度が残っており、十人ほどの兄弟子たちと一緒に作業場に寝泊まりをして彫刻の修業に励む毎日でした。休日も月に二日しかなく、つらいと思ったこともありましたが、先輩に負けたくないという思いで頑張りました。」

懐かしそうに、当時を振り返って修業時代の話をしてくださった。

平成九年には伝統工芸士に認定されたが、これを終着点とは考えなかった。

「伝統工芸士として認められたことにより、自分の仕事を大切にしたいという気持ちがいっそう強くなりました。そして仏壇の部品を作る仕事以外にも自分の作品を作りたい、もの作りの楽しさを人に伝えたいと、考えるようになりました。」

とクラフト工房を開いた動機について、語ってくださいました。

工房では、初心者は正方形の木材からコースターを作り、次に鍋敷きやタオル掛けなどの作品に挑戦する。基礎をマスターすると、それぞれが自分の作りたい物を作るように

アドバイスしておられる。作品展でも作品を並べるだけでなく、体験コーナーを設けて、作る楽しみの場を提供されている。

「プロの職人よりも楽しみながら作品作りをしている素人の方が輝いて見えることがあり、自分も職人であると同時にアーティストでもありたいと思うことがあります。部品とは違う自分の作品を作る楽しさを大切にしたい。そして、自分が子供のころに見た風景を彫刻にして作品展を開きたいと思っています。自分の工房がもの作りの発信地になるとうれいいですね。」

これからの抱負についても情熱を込めて話してくださいました。

氏名 いしかわ みつあき
生年月日 昭和二十八年二月十九日
住所 藪田二丁目四一六



応できないから思案に暮れた。

そんなとき、閃いたのが卒業生だった。こうなったら昨年(ひらひら)の猛者を呼ぼう。荒れのまったただ中にいた子、生徒会の子、失礼ながら硬軟とりまぜてびったり十五名が揃った。お礼はバザーのうどんとおでん券ですませてもらうことにした。

当日、早朝から相手スタッフの櫛(くし)が飛ぶ中、時には目を剥いてみせるものの大活躍の一日。正に名案であった。それにこの子たちが学校のために働いていると分かり、テンションの高い卒業生や在校生が落ちついた。今年の文化祭の最高殊勲選手は彼らなのである。

思えば昨年、「北中学区生徒指導ネットワーク」を開催した折、本学区は二十歳未満の青少年の犯罪率が異常に高いことが指摘された。中学を出てから五年以内の子に当たる。学校や学区に何が欠けているのか分析しなくてはならないが、当面は卒業生とタイアップして学校を盛り上げていこうと思っっている。みんな仲間にするところから始めたいからである。

実はそのための一計も考えている。近日公開としておこう。

特集



藤井新教育長を



訪ねて

二十一世紀の教育を描く

二十一世紀、新しい教育はどうあればよいか。こんな課題を持って、師走のある日、藤井孝弘新教育長を訪ねた。聞き手は、鶴田紀美子編集委員長である。

今回の教育改革では何が重要でしょうか

今回の教育改革は、「教育の総合化」と言われているところに特色があります。その趣旨は、子供の主体性の育成と個性尊重の教育の一層の展開を図ることです。教育の立て直しを図っているとも考えられます。そのためには、学校改革が必要です。そして、最も重要なことは教師の意識改革です。そこに、この改革の基礎基本があると強く思います。どのように意識改革をしていくのかと言うと、子供を中心においた教育をする、子供を主体にした学びをつくる、さらには、子供が教育課程全般にわたって活動できるように学校経営をすることを意識し、実践することです。とにかく先生が変わることが第一です。

めざす学校とはどのような学校でしょうか

子供をよくするためにあるのが学校です。具体的に言うと、めざす学校と言うのは、子供が学びたい学校、教師が勤めたい学校、保護者が通わせたい学校で、これらに尽きると思います。さらに、頭と心と体を鍛えるところと言うことを再認識して、学校づくりに取り組んでいただきたい。それぞれの教科の本質を踏まえて、どう鍛えているか、発達段階に応じて、どのように系統立てて鍛えているか、見つめ直していただきたい。そして、子供たちが、夢を持つことのすばらしさを体感できる学校であってほしいと願っています。

学校に特色を持たせるためには何が必要でしょうか

すべての子供が、明日の学校を楽しみにする魅力ある学校、地域の方が自慢や誇りの持てる学校であることに集約されると思います。

それを具現化するには、地域の特性を踏まえた大事なことを、先生と子供たちが一緒にやって続けることです。

これからは、学習内容や時間がカットされていきます。今後、行事は精選されますが、形は変えてもその精神は大切にしてほしいと思います。

新しい時代の教育にこたえるために 教師に必要なものは何でしょうか

今「ゆとりの中で生きる力の育成」が求められています。子供の生きる力を伸ばす前に、教師自身が生きる力を身に付けていただきたい。具体的に言うと、個人としての資質の向上と同時に、一人一人の心の内に人間としての膨らみ、豊かさを持つていただきたい。例えば、教育以外の異業種の人たちとの交流範囲を広げたり、成長して社会の一員として活躍している教え子から、さまざまなことを吸収したりすることも大切です。さらに、先生方の個性を伸ばし、その学校になくてはならない存在であってほしいと思います。

教育の力とは、次の三つだと思っています。まず「子供を引きつける力」です。二つ目は、「子供に分からせる力」を身につけることです。三つ目は、「子供を奮い立たせる力」。子供にもっと学びたいと言う思いを持たせることです。学校週五日制になったとき、授業で学んだことを家庭や地域で、もっともつと調べてみたいと言うような子供を育てたいもの

です。

子供は本来さまざまなよさや可能性を秘めており、常によりよく生きたい、より向上したいという欲求を持っています。子供を多面的な物差しで見つて、可能性を伸ばすことが必要だと思っています。

学校は地域とどのようにかかわって いけばいいでしょうか

これからは教育力を高めるために、今まで以上に連携を深めることが大切です。そのためには、開かれた学校をめざすべきです。地域の方に学校の教育方針を示したり、自由参観日を設けて、参観していただいたりして、外から見える形にし、学校、地域、家庭のそれぞれが、教育力を高める必要があります。

岡崎の二十一世紀プラン「人が輝く活気に満ちた美しい都市 岡崎」と言う合い言葉が、そのまま「子供が輝く活気に満ちた美しい学校」と、教育にもあてはまります。

子供をよくすると言う目標に向けて、学校が家庭が地域が、真剣な態度で取り組みたいものです。

大切にされている言葉を教えてください

「忠恕」と言う言葉を大切にしています。

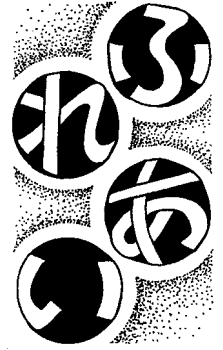
「忠」は、心の中で誠を尽くすことです。

「恕」は、自分の心の如く他人の心を思い

やることです。つまり、自分の嫌なことを、他人に押し付けたくない思いやりの心です。

二十一世紀は人間らしい心を取り戻す時代です。感動・思いやり・感謝の心を忘れてはいけません。私は「誠意を持って事にあたれば、事必ず成らん」と言う言葉をモットーに、誠心誠意、心を尽くして人とかわっていきたい。人とのかわりの中で、感動する心を持ち続けていきたい。そして、子供たちの夢をはぐくんできていきたいと思っています。





仲間の一人として

新香山中学校

柴田 明美

「死にたいと思ったこと、あります。」

『だから、あなたも生きぬいて』を読んだA子の読書感想文の書き出しである。一学期、道徳の授業での彼女の感想には、これまでに二度クラスから集団無視を受けた苦しい胸のうちが書かれていた。

A子の私への言動は不安定なものであったが、それは助けを求めているようにも思えた。そんな彼女と激しく衝突したり、時には優しく受け入れられたりと、その繰り返しの日であった。

七月、突然A子が言った。「先生、今年は最後だし、クラス全員で文化祭の名人劇場（生徒会主催のステージ）に出たらどうか。なんか、

できそうな気がする。」
「いい案。ぜひ、あなたからみんなに提案してみて。」
ちゆうちよする彼女を励ました。

さまざまな意見が出されたが、A子の熱意と賛同者の呼びかけによって劇への参加が満場一致で決定した。劇の脚本作りと準備、合唱コンクールの練習で大変な毎日であった。しかし、A子を中心としたスタッフの意気込みは、確実にクラス全体に広がった。文化祭前に「私、前と変わったよね」と、自らの成長を語ったA子。仲間の一人として大きな仕事を成し遂げた彼女の目には、自信と確かな存在を感じ取った涙が光っていた。



師弟同行

感謝

羽根小学校

二瓶 千秋

中三の進路決定のとき、担任の成田先生から「岡崎高校を受けてみなさい」と言われました。先生の一言がなければ岡高進学もなかったし、ましてや教職の道に進むこともなかったと思います。だから、今の私があるのは、すべて成田先生のおかげです。

母子家庭の長男として育った私は、実は就職・定時制高校進学を考えていました。今思うと、私の人生の大きな分かれ目だったわけです。右も左も分からない世間知らずの私を導いてくださったのが先生です。今でも合格発表の瞬間は忘れられません。そして、独特の笑顔と語り口でおっしゃった「よかったな」「おめ



でとう」「頑張れよ」の三言は、それからの私を大きく変えたように思います。

何をするにも、常に私を後ろから励ましてくださった先生。おかげで何事にも少しづつ自信を持てるようになった気がします。それが今の私の支えとなっています。

成田先生のように、先を的確に見越すことのできる器の大きな先生になれたらと思っています。

賢母ありて

元竜海中学校長

成田 邦彦

卒業アルバムを見ると、昭和四十三年春とある。クラス写真の最前列になんと若い坊主頭の君がいる。

思い出す。家庭訪問をした次の日だったろうか。言い回

しは定かでないが、「どうだった、母さん。若くて美人だったでしょう。しっかりと立派でしよう」絶対的存在として母親をみる君に、「賢母ありてこの子あり」と思ったことを今も忘れない。

私の教師像は、日本で最初に全人教育を唱えた小原國芳先生である。先生に感化を受け、できるだけ自由に楽しいことの多い学級を心した。それができたのは、当時、よい意味での儒教的思想が多くの家庭で育まれていたからだと思う。

四十八人の中から七人ほどが岡崎高校へ。君は成績だけでなく人間的にも抜群だった。当時統一テストがよくあった。結果が良いとにこっとし、芳しくないときと真顔になり、「今度はやるぞ」と闘志を燃やしていた君。懐かしいなあ。今年の同級会、忙しかったのかな。忙中閑を楽しんでよ。教頭さん。

先生になった子が四人もいた。担任をみて教育の危機を感じたのかもしれない。

お知らせ



毎年講習会や研修会を開き、伝統的な技術の継承に努めた。

「しめ縄」作りの体験を学校の教育活動に取り入れるなど地域産業の振興に貢献した。

◆岡崎総合書道会

友好都市フフホトと「書」を通じた交流や小中学生の書道作品を地元新聞紙上に掲載するなど、書道文化の向上に努めた。

◆平成十二年度みどりの少年団交歓会活動発表

特選 愛知県知事賞
連尺小学校

◆第二十回全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会

優秀賞 矢作中一年 杉浦 由希

◆第四十五回ソニー教育資金贈呈校

優秀校 大樹寺小学校
常磐中学校

◆平成十二年度健康フェア

市長賞 連尺小五年 三後 祐佳
習字の部

・描画の部
梅園小五年 林 朋典

◆大門しめ縄組合

・ポスターの部

南 中三年 仲 亜弓

◆第四十回西三河中学校英語スピーチコンテスト

入賞 矢作北中三年 松尾 太平
美川中二年 柴田 尚人
美川中三年 高橋 陽子
城北中三年 石井 淳
竜海中三年 山本智恵子
附属中二年 上野 碧
附属中三年 近藤 朝子

◆平成十二年度 白秋祭献詩

特選 福岡県知事賞
福岡小二年 山崎 雄次

◆「二十一世紀に輝く新首都」首都機能移転・絵画コンクール

小学校高学年 県知事賞
矢作西小五年 沢 侑希

◆生きる力をはぐくむ読書活動推進事業

優秀実践校 根石小学校
◆第二十五回みどりの絵コンクール

優秀賞 北野小一年 小柳津徹也

◆第十回朝日「ぼくとわたし」の健康」作文コンクール

特選 ノバルティスファーマ賞
連尺小五年 市川妃かり

◆第三十五回CBCこども音楽コンクール―中部日本決勝大会

・小学校管楽合奏部門
最優秀賞 竜美丘小学校
・中学校合唱部門
最優秀賞 六ツ美北中学校

・小学校合奏第一部門
優秀賞 大樹寺小学校

◆中学生非行防止ポスターコンクール

優秀賞―県警察本部長賞
竜海中二年 小原みなみ

甲山中三年 鈴木 由衣
城北中三年 河合亜佐子
岩津中三年 湯澤 佑梨
附属中一年 辻 裕人
附属中三年 鈴木 朋美

◆フラワー・ブラボー・コンクール秋花壇表彰

優良賞 六美中部小学校

◆第十七回明るく社会づくり実践体験文

・小学校の部
放鷹賞 梅園小五年 久米 知美
市長賞 大樹京奈 水野由貴子
賞賛賞 三島小五年 太田 景子

・中学校の部
会長賞 附属中二年 星野 博昭
賞賛賞 矢作中三年 寺田 弥世

◆第五十回西三中学校駅伝大会

・男子 二位 竜海中学校
三位 竜南中学校

・女子 二位 矢作北中学校
三位 六ツ美北中学校

◆第四十九回県中学校駅伝大会

・男子 二位 竜海中学校

・女子 二位 竜海中学校

二位 矢作北中学校



▲第28回教育文化賞授賞式（平成12年11月18日・せきれいホール）

・カ
ツ
ト
矢作北中 畔柳 とも子



少年消防クラブ (昭和56年)



写真提供 岩津小学校

少年消防クラブは、昭和二十六年に各町単位として自主的に結成された。その後、昭和四十三年に各クラブの連絡協調を図るため、各小中学校ごとに連合クラブを組織し、各学区による防火活動が展開された。

写真は、少年消防クラブ活動の一環として行われた避難訓練の様子である。当時としては最新鋭のはしご車を使つての訓練が実施された。

岩津学区少年消防クラブは、昭和五十一年に全国大会で表彰された。その後、連尺学区や愛宕学区の各クラブも全国大会で表彰を受けている。



- * 21世紀 知の挑戦 立花 隆 ¥1,524
文藝春秋
- * 日本の論点2001 文藝春秋編 ¥2,667
文藝春秋
- * これから人は何のために生きる 堀田 力 ¥1,500
講談社
- * 家族を「する」家 藤原 智美 ¥1,500
プレジデント社

* 武士道 新渡戸稲造著・奈良本辰也訳 三笠書房 ¥495
この書の原文は、五千円札で知られている新渡戸稲造氏が1898年、37歳のとき、アメリカ滞在中に英文で書いたものである。「欧米人は、宗教によって道徳教育を授けるのに、日本人はどのように授けているのか」ベルギーの法学者、ラヴレー氏の問いに、武士道の教えが、著者の頭にうかんだという。単に武士道論ではなく広い視野と柔軟な理性で、百年前に「日本人の心」の有り様を論じている。
温故知新。己をどう磨き、どう生きていくかを改めて考えたい。

幼心に焼き付いた正月の思い出。たこあげ、百人一首、福笑い、すごろく。家族や親せきと、時を忘れて楽しんだことを思い出す。さて、わがクラスの子供たちは、どのようにこの正月を過ごしたのだらう。今も昔も変わらぬ正月の遊びを新年早々の話題としよう。

シ オ ス ア

新春らしい琴の調べ。近年若い人にも、歌舞伎や狂言といった伝統芸能の人気が高まっているという。

二〇〇二年より中学校の音楽でも、琴や三味線、和太鼓、尺八などの和楽器が取り入れられる。新しい世紀にも子供たちの手で、伝統芸能を伝えていきたい。

アトムの誕生は二十一世紀。子供のころに夢を描いた漫画の世界が現実の時となった。新しい世紀はどのような世の中になるのだろうか。暖冬と言われながらも元日の夜明けは寒い。初日の出を拝みながら、今年是一年の計ではなく、新世紀一〇〇年の計を立ててみた。

数年先を見通した新しい時代の教育を極め尽くそうとする熱意が感じられる新教育長。今、まさに新しい岡崎の教育の始まりであることが、ひしひしと伝わってくる。教育改革の意図するところを十分かみしめ、一步一步着実に歩んでいきたい。